

## 世界史

### 問題 I

[出題の意図]

「隋末の乱」を手がかりに、南北朝から唐にいたる歴史の潮流に対する理解について問う。あわせて歴代王朝末期に発生する「乱」に対する通史的把握について確認する。

[正解・解答例]

- 問1 a) (政権の名) 北魏 (民族の名) 鮮卑 (氏族名) 拓跋氏 (拓跋部も可)  
b) 北魏は五世紀の前半に華北の統一に成功したが、孝文帝の急速な漢化政策により部族制が崩壊し、政権を支える北辺の軍鎮が反抗して東魏と西魏に分裂、のちそれぞれの有力者である高氏・宇文氏が魏帝を廃して自立した。
- 問2 a) 皇后・后妃の親族  
b) 幼くして皇帝が即位した場合、皇太后（皇帝の母）やその親族の男性が後見役として皇帝一族に代わって実権を握り、国政を壟断することがしばしばあった。前漢を滅ぼして新朝をたてた王莽や、後漢中後期に外戚・宦官の専横、唐代に則天武后が政権を握った際の武氏一族などが例として挙げられる。
- 問3 a) ③赤眉 ④黄巾 ⑤紅巾 ⑥陳勝・呉広 ⑦ —— ⑧ —— ※  
⑨李自成 ⑩太平天国 ⑪義和団  
b) (番号) ④ (宗教名) 太平道 (番号) ⑤ (宗教名) 白蓮教
- 問4 a) —— b) —— ※
- 問5 a) ⑭高句麗遠征 ⑮大運河の開鑿 (開削・造営・建設)  
b) (王朝名) 唐 (支配者の名) 高宗  
c) (首都名) 長安 (大興)・開封・杭州 (臨安)・北京 (大都・北平) のうち3つを記入  
(影響) 隋唐以降中国の経済的中心となった華南 (中国南部) のゆたかな物資を政治的・軍事的な重要性の高い華北に運び、中国の南・中・北部を緊密に結合するために長い間重要な役割を果たした。

---

※ 問題 I 資料文 18 行目の穴埋め番号を⑦としていたことにより、問 3 の⑦、⑧、問 4 の a)、b) については解答が導き出せない。  
なお、詳細については下記ページをご参照ください。

「令和4年度一般入試(前期日程)における地理歴史(世界史)の出題ミスについて」  
[https://www.nagoya-u.ac.jp/info/20220225\\_nyushi.html](https://www.nagoya-u.ac.jp/info/20220225_nyushi.html)

## 問題Ⅱ

[出題の意図]

広く近現代に関連する世界史的な知識を問います。

[正解・解答例]

問1 (1) ヴァスコ＝ダ＝ガマ (2) 永楽帝

問2 ムガル帝国

問3 (1) ③ (2) ⑤ (3) ⑥

問4 カイロ、カルカッタ、ケープタウン (順不同)

問5 スターリン

問6 ③

問7 通貨をもとにして、本国と海外植民地・自治領などが排他的な経済圏を形成した様子を説明する。

問8 GATT／ガット

問9 (1) マーシャルプラン (2) 北大西洋条約機構 (NATO)

問10 (1) コメコン／COMECON (経済相互援助会議) (2) 1955年

### 問題Ⅲ

[出題の意図]

近代ヨーロッパの歴史にかかわる重要な諸史料を手がかりに、正確な歴史的知識を問うとともに、それらの知識を踏まえて論理的に叙述する能力をみる。

[正解・解答例]

問1 A : 4、B : 3、C : 1、D : 5、E : 2

問2 ① : B、② : A、③ : E、④ : C

問3 アレクサンドル1世

問4 ライン同盟

問5 【解答のポイント】ユダヤ系の軍人ドレフュスの冤罪事件の経緯について（また、国内外への影響等）、簡潔に記述する。

問6 【解答のポイント】オスマン帝国内のギリシア正教徒の保護等、簡潔に記述する。

問7 【解答のポイント】輸入される穀物に高関税を課したこと等、穀物法について簡潔に記述する。

#### 問題IV

##### [出題の意図]

紀元前後から5世紀ごろにかけての東南アジア地域について、日南郡、林邑（チャンパー）、扶南が東は中国、西はインドやローマにまで至る交通・交易路の拠点となっていたこと、インド船の盛んな活動などにより東南アジアの「インド化」が生じたことを、その具体的な特徴やそれに関わる具体的事象などを含めて理解しているかどうかを問う問題である。

##### [正解・解答例]

ベトナム中部には前漢武帝期に日南郡が置かれ、南海交易の拠点となった。ローマ皇帝の使者が日南郡を訪れたという記録もある。2世紀末には日南郡に替わって林邑（チャンパー）が建国され、インドなど西方と中国との中継交易で栄えた。メコン川下流域では1世紀末に扶南が建国された。その港オケオでローマ貨幣、ヒンドゥー神像、仏像、漢の鏡が出土しており、西はローマやインド、東は中国と通じる交通・交易路が扶南に至っていたことが分かる。インド船の盛んな活動により東南アジアはインド文化の影響を受け、4世紀末から5世紀にかけてヒンドゥー教・大乘仏教、王権概念、インド神話、サンスクリット語、インド式建築様式などを受容した「インド化」と呼ばれる変化が生じた。林邑にも扶南にもその支配者とインドとの関係を語る伝承が残されている。(350字)